

だんないの道

第11号

2013年10月24日発行

発行者：NPO法人CILだんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町
千田681番4

TEL：0749-50-3639

E-mail：dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつP1
出生前診断と私たちの関係P2
福祉車両を寄贈していただきましたP3
活動報告P3
リレートークP6
コラム よりの雑記帳P7
編集後記P8



代表あいさつ

この夏も猛暑となり、だんないに出てくるのがやっとな、というほど私たちは夏バテしていました。それでも立て込んでいる予定はすっ飛ばすこともできず、職員が一致団結して何とか乗り切りました。最近になり、ようやく暑さが落ち着きましたが、今度は気候の変化についていくのが一苦労です。風邪を引かないように注意を払いたいものです。

さて、前号の発行から早くも4か月が経ちました。その間に、だんないでは多くの出来事がありました。1つは、研修生2人による漫才です。小里・中川がコンビを組み、長浜駅周辺で漫才を行いました。そこでは、だんないの介助者募集のチラシを配りながら、彼ら2人が考えたネタで、夕方に帰宅する学生やサラリーマンなどに障害者問題を訴えかけました。もちろん漫才なので笑いは欠かしませんが、その中に障害者が抱える生活問題を入れ込み、見ている方に考えていただけるよう、ネタには工夫したようです。会員の皆様にも機会があれば、ぜひ小里・中川の漫才を観ていただきたいです。街で2人の姿を見かけたら、立ち止まってご観覧ください。どんどんバージョンアップしていくこと、間違いありません！〈ハードル上げたったあ笑〉

2つ目は、湖北自立生活塾のハイペースな進行具合です。当初の予定より順調で、もうカリキュラムの終盤に差し掛かっています。ほぼ全ての塾を受講されている方もおられる一方で、少し休みながら受講されている方もおられますが、それぞれのペースで塾に臨まれているように思います。それとともに、権利、自立生活、外出、調理といったテーマごとに講義を受ける彼らの中で、自立生活への意欲と課題が明確になってきているのを感じます。今後、塾のクライマックスを迎えることから、受講者それぞれの自立生活を実現できるようにサポートできればと思っています。

さて、前号でもお伝えしましたが、6月に障害者差別解消法が国会で制定されました。滋賀県でも、この動きを活かそうと障害者差別禁止に関する条例作りが盛んになっています。湖北地域においても、来たる11月9日(土)13時～、条例作りを見据えたワークショップ(話し合い)が、だんないの2周年を開催した臨湖で行われます。

糸賀一雄生誕100周年事業の1行事で終わってしまうか、私たちが願う条例作りへの糸口となるのかの分かれ目だと感じています。是が非でも条例作りへの糸口とすべく、各機関と協力して努力していきたいです。

あと2か月ほどで今年も終わろうとしています。時間の流れの速さには本当に驚きます。この夏、だんないは色々な出来事と遭遇しました。その中には、うれしいこともありました、とてもつらいこともありました。疲れ果ててしまいそうにもなりましたが、その時、仲間の存在によって支えられました。目の前で起こることは自分の力ではどうにもならないことばかりですが、そういう時こそ仲間と一致団結すれば困難を打開できることに改めて気づかされました。今後とも暖かく見守っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後にもう一度。研修生の漫才に乞うご期待！

美濃部 裕道

出生前診断と私たちの関係

研修生 小里和也

10月8日に神戸で出生前診断ワークショップが行われ、参加しました。出生前診断とは、胎児に異常があるかどうか調べる検査のことです。検査方法は、超音波検査や母胎の血液からの胎児DNA診断などがあり、他にも様々な検査があります。

この診断の問題は、いる命やいらぬ命の選別や女性の精神的・肉体的負担や障害者の生きづらさなどのことがたくさんあります。出生前診断を受け、胎児に異常があるという理由で中絶する人が10年前と比べ増加しました。95年～99年で約3000件でしたが05年～09年になると約9000件と3倍になりました。また、現在では新型出生前診断も始まっています。

出生前診断には、賛成や反対の意見がたくさんあります。賛成意見の人たちは「障害を持つ子供を育てるのは大変」「障害者＝不幸」「五体満足な子供を産みたい」というものがあります。反対意見は、「障害を持って生まれる事は許されないのか」「今を生きる障害者の存在を否定」「検査を行う事での母体への影響」「元気な子供を産まなければいけないという社会的抑圧」というものです。

初めて出生前診断の事を知ったときは、「もし自分が生まれる前にこのような診断があったら、自分はようになっていたんだろう？」とか「自分が“廃除”されてしまう。自分の存在はみんなから否定されてしまう。」と思い、凄く衝撃を受けました。でも、障害があること自体が不幸なことではなく、たとえ短い命であっても、身体や脳の構造が人と違っていても、何の問題もありません。

私たちはその命を全うする権利があります。また、医療機関をはじめとする人間は、障害がある子も救うために全うする義務があります。これから障害をもって生まれてくる子供や、今を生きる障害者、また事故や衰えなどで障害をもつであろう人達が、自分の存在を否定し、自分自身を「障害があると、だめな人間」と思うことはすごく辛いことです。そうならないためにも、まだ出生前診断のことについて知らない人達に、この問題を伝えていく必要があります。

『障害』があっても、存在を否定されない社会を目指していくこと。また、健常者を産まなければいけないという抑圧をなくしていきたいです。それと、自分自身も出生前診断のことを学び、だんないでもこの問題について取り組んでいきたいです。

福祉車両を寄贈していただきました

今年8月、湖北タウンホーム様より、福祉車両を寄贈されたい方がおられ、だんないとして寄贈を受けてはどうかという、お話をいただきました。法人では当初より、湖北圏域での移動手段には大変困っており、個人の車両を使用したり、乗るたびに乗り換えが必要な軽ワゴンの法人車を利用したりしていました。また今年から、当事者職員がさらに増え、移動手段の確保は急務な問題でした。その中で、このお話は本当にありがたく嬉しい限りでした。しかも、いただける車両はリフト車で、車椅子ユーザーが2～3人も乗車できます。

車両を寄贈してくださる方は、余呉町に住んでおられる伊吹様でした。お子様やご主人がお亡くなりになり、福祉車両が必要なくなったとのことで「使用してもらえるのなら」とタウンホームにお話されたようでした。関係がなかった当法人への寄贈にも暖かく承諾してくださいました。その後、必要な手続きを踏み、10月中頃に寄贈が完了しました。

車両の名前は、伊吹様のご家族への感謝の気持ちを込めて「いぶき号」としました。今は毎日のように使用しており、利用者や職員からは喜びの声を聞いています。これからも、伊吹様や湖北タウンホーム様への感謝を胸に、大切に使用させていただきたいです。本当にありがとうございました。



活動報告

日付	内容	参加者
7月2日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会事務局会議	美濃部、頼尊
7月3日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第3回湖北自立生活塾	美濃部、頼尊、小里、中川
7月4日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会事務局会議	頼尊
7月5日	長浜養護学校 評議委員会	美濃部
7月5日～6日	DPI エンバワメントスクール	頼尊
7月7日	県身協 第1回青壮年部交流会 講演	頼尊、小里、中川
7月8日	野洲中学校 講演	中川
7月9日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第4回湖北自立生活塾	美濃部、頼尊、小里、中川
7月10日	長浜バイオ大学 講演	美濃部

7月10日	JCIL プラットホーム検証会	
7月13日～14日	アクセスマニア全国集会 in 神戸	
7月16日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第5回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
7月18日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 相談ワーカー部会	美濃部 市川
7月19日	地域活動計画福祉関係者懇談会 in だんない	
7月20日	バス停環境のあり方についての学習会	頼尊
7月21日	だんないピアカウンセリング講座	美濃部 頼尊、小里、中川
7月23日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第6回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
7月24日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会	頼尊
8月2日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第7回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
8月2日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第1回全体会議・実務者会議	全員
8月5日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会事務局会議	美濃部 頼尊
8月5日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 発達しょうがい者支援部会	頼尊
8月7日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第8回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
8月7日	長浜バイオ大学 集中講義	美濃部
8月8日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会	頼尊
8月9日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第9回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
8月19日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第10回湖北自立生活塾	全員
8月20日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
8月22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 相談ワーカー部会	美濃部 市川
8月22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 発達しょうがい者支援部会 事務会議	頼尊
8月27日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第11回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
8月30日	ピアカン・ピギナズにあつまれ！ in リングリング	小里・中川
9月3日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第12回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
9月4～5日	バリアフリー障害当事者リーダー養成研修	頼尊・中川

9月5日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会 事務局会議	美濃部 小里
9月6～7日	DPIエンバワメントスクール	頼尊
9月10日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
9月11日	アクセス関西ネットワーク事務局会議	頼尊
9月12日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 発達しょうがい者支援部会	頼尊
9月13日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第13回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
9月17日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第14回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
9月18日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
9月19日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 相談ワーカー部会	美濃部 市川
9月20日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会	頼尊
9月23日	だんないピアカウンセリング講座	美濃部 頼尊、小里、中川
9月24日	長浜バイオ大学 集中講義	美濃部
9月26日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第15回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
10月1日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
10月2日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会事務局会議	
10月2日	民生委員懇談会	
10月3日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 発達しょうがい者支援部会	頼尊
10月4日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第16回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
10月8日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第17回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川
10月8日	出生前診断ワークショップ	小里
10月9日	大和学園 講演	中川
10月9日	坂田小学校 講演	美濃部、市川
10月10日	アクセス関西ネットワーク集会 in 京都	
10月11日	長浜養護学校 高等部文化祭	美濃部
10月11日	リングリング ピアカウンセリング集中講座	小里、中川
10月11日	湖北圏域ワークショップ開催に向けた会議 in ぼてとファーム	美濃部、頼尊
10月12～13日	第16回全国交流集会 in FUKUOKA	頼尊
10月16日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第18回湖北自立生活塾	美濃部 頼尊、小里、中川

リレートーク

CIL だんない 研修生の中川佑希です。

今年の6月から長浜市で自立生活をしながら、だんないで活動をしています。

主な活動としては各種研修への参加、月一回行っているピア・カウンセリング講座、障害観変革事業（学校や企業に出向いて行う講演）です。不定期ですが、路上漫才も始めました。

なぜ、始めたのかと言うとやっぱりメディアなどで取り上げられている、障害者といえば「障害負けずに頑張っている人」などのイメージが多くあると実感したからです。実際、自分がメディアに取り上げられたときに実感しました。その中で、自分が暮らしている地域の中で直接関わることで、自分なら障害観を変えていけると思ったのが、そもそものきっかけです。

両親や職員さんに言われてやるんじゃないで「自分自身で考えて決める。自己選択・自己決定」が自立生活の醍醐味です。僕がだんないに来て特に良かったと思うことは困った時に何でも話せる仲間がいるということです。今までは二次障害を恐れてやりたいことがあってもセーブしていました。なぜなら、障害は軽度の方がいい、自分で出来ることは自分でやる方がいい、と周りからずっと言われてきたので、僕自身もそう思い込んでいたからです。

「もっともっと頑張らなアカン」ってまさに医学モデルの思想ですね。でも、それってめっちゃしんどい。ありのままの自分を認められないことで、出来ない自分を責めて、障害のある自分が悪いのだと思うようになっていました。

そんなときに仲間と出会えたことで僕自身が本当に悪いのかと考えるようになり、社会自体に問題があるんだって気付けると凄く気持ちが楽になりました。なぜ、今まで気付けなかったんだらう？それは、ロールモデルに出会えなかったことが理由だと思います。障害があるということで自分の思いを伝えることをやめてしまい、どんどん自己否定をしてしまうと思うんです。だから、これから僕自身がロールモデルになって、どんな重度な障害があっても堂々と生きていける社会になるよう、医学モデルから社会モデルへの変革を目指して自分らしく活動していきますので宜しくお願いします。

最後に挑戦したいこと

- ・湖北の養護学校や施設などで漫才や講演をやって新しい仲間との出会い、自立生活の面白さをどんどん伝えていきたいです。
- ・湖北地域のことを知りたい。
- ・地域のお祭りに参加したいです。

CIL だんない 研修生 中川佑希

コラム

ヨリの雑記帳（10）

「人、酒を飲む」、「酒、酒を飲む」、「酒、人を呑む」。これは、人が酒を飲んで酔っぱらっていく過程を象徴的に言い表した表現である。

私自身、オサケはたいへん好む者である。私がこの言葉を知ったのは、大学1回生の頃だ。当時、コンパ等で酒の味を知り始めた頃であったので、「言い当てた言葉だなあ」と思った。私自身、若気の至りで、酒に呑まれることもあった。その思い出を振り返ると、「酒、酒を飲む」という状態より先は、自分自身が酔っぱらっているということに、気付かない。周りに「オマエ、酔っているで！」って言われても、「いや、酔ってない！」と言い返してしまう。このことは、酔っぱらいには、水と焼酎の区別がつかないと揶揄されることからわかるであろう。

たぶん、このような状態になっていくことは多くのアルコールを好む人にとっては、ある種、よく知られたことである。しかしながら、私も含めて深酒をする人が後を絶たない。「オサケで失敗した」という話はよく聞く。でも、それを繰り返す人もいる。

これは、アルコールの依存性だけが原因とは思えない。オサケに逃げざるをえない社会環境がその背景のひとつにあるのであろう。つまり、飲酒行為自体は非常に個人的なものであるが、その背景には非常に社会的なものがある。もちろん、私の立場としては、禁酒することが良いと言っているわけではない。飲酒問題を考える中で、ついつい問題を個人化し、社会的背景を忘れてしまうことが多いと言いたいのである。

でも、これは飲酒の問題だけではないだろう。世の中には「結果が悪くなることを知っているが、やめられない」という物事が少なからず存在する。それは、オサケの禁断的症状に非常に似たものがあるだろうし、「物事の途中から結果の危険性が見えなくなる」ことは、「酒、人を呑む」というオサケの末期症状に似ているのかもしれない。

思い起こせば、このようなことは自分自身多く経験している。たとえば、小学生だった頃、多く宿題が出ていて、とっても余裕がないことがわかっているのに、「ちょっとだけTVを…」って言って、結局、長くTVを視てしまい、宿題ができなかった経験である。難しいこと、しんどいことより先に楽しいこと、気分が良くなることをしたく思ってしまうのは、人間のひとつの心の習慣的働きかもしれない。

しかしながら、物事の中には「心の習慣的働き」と言い訳してはならないものもある。つまり、「酒、人を呑むという状態であった」と言い訳できないものもあるのである。それは、例えば群集心理などがそうである。一端、群衆がある方向に考え方が向き出すと、一端立ち止まって考えることすらできなくなることも多い。そこに、群集心理が狂気化する瞬間がある。狂気化の状態は、「酒、人を呑むという状態」そのものである。まさしく、そこから先は、正気の状態に戻ることは非常に難しいのである。

このような狂気化した群集心理は、いつでも、どこでも起こりえる可能性を秘めている。特に、社会が上向きの状態であるなら、なおさらである。私たちは、心して「人、酒を飲む」という正気の状態で、楽しく酒を飲み、生活したいものである。

（よりたか つねのぶ）



編集後記

朝晩と少しずつ涼しくなり、冷え込む季節が近づいてきました。季節の変わり目、体調を崩さないよう気をつけたいですね。今年は台風が多く、先月の台風では八月三〇日に運用が開始された特別警報が発表され、滋賀・京都・福井と大きな被害をもたらしました。被災された方々へお見舞い申し上げます。

さて、これまで当法人の事務所で使用していた洗濯機が故障して困っています。そこで、もう使わなくなった洗濯機があり、当法人へ寄贈してもよいという方がおられましたら、ぜひご連絡いただくと助かります。五年以内くらいのもので、動作に支障がなければ使わせていただきます。

(市川)

NPO 法人CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL : 0749-50-3639

URL : www.ab.auone-net.jp/~dannai

FAX : 0749-50-3961

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

郵便振替口座番号：ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115